

台風や大雨などの風水害に備えよう

台風について、気象庁のデータから30年間(1991～2020年)の平均を見ると、発生・接近・上陸ともに7～10月にかけて最も多くなります。台風・高潮・大雨などの風水害は、地震とは違い、**ある程度事前の予測が可能です**。発災前に情報収集や避難のタイミング、避難先の確認のほか、非常持出品などを準備しておきましょう。

避難のタイミング・避難先を考えておきましょう

避難は、指定緊急避難場所や安全な知人・親戚宅に避難する「立ち退き避難」が基本ですが、今いる建物内で安全を確保できる場合は「在宅避難」も有効です。普段からハザードマップを利用して、自宅やその周辺の災害リスクを確認しておきましょう。



事前しておくこと

●情報入手手段を確認する

複数の情報入手手段を確認し、確実に情報を受け取れるようにしておく。

- ①「防災みえ.jp」メール配信サービス
- ②三重県公式防災アプリ「みえ防災ナビ」



①防災みえ.jp



②みえ防災ナビ

●危険な箇所や避難する場所を把握しておく

ハザードマップで災害リスクなどを確認しておく。

※令和8年6月に鳥羽市高潮ハザードマップおよび内水ハザードマップも作成・公表しました。



各種ハザードマップ
(市ホームページ)

このあとどうなるかを確認(避難のタイミング)

- 防災気象情報(注意報や警報など)が発表されたら、危険度を地図上に示した「キキクル」や、今後の危険度の推移を示した時系列情報(明日までの警報などの見通し)などを、気象庁ホームページで確認してください。
- 多くの場合、防災気象情報(注意報や警報など)は、市が発令する避難情報よりも先に発表されます。警戒レベル3に相当する防災気象情報(レベル3土砂災害警報、レベル3高潮警報など)が発表されたら、市からの避難情報が発令されていない場合でも、「キキクル」や河川の水位情報を確認し、必要に応じて自らの判断で避難することも検討してください。



キキクル
(気象庁HP)



三ツ島と朝日

鳥羽で生活を始めてから特に印象的だったのは、船が人々の移動手段として自然に使われていることです。フランスでは船という旅行や冒険のイメージが強く、通勤や通学のために利用する感覚はあまりありません。そのため、定期船がバスのように決まった時間に行き来している様子

暮らして気づく鳥羽の風景

旅行でその土地を訪れる時は有名な場所や景色に目が向きますが、実際に暮らしてみると日常の中にある小さな特徴に気づくようになります。鳥羽で生活を始めてから特に印象的だったのは、船が人々の移動手段として自然に使われていることです。フランスでは船という旅行や冒険のイメージが強く、通勤や通学のために利用する感覚はあまりありません。そのため、定期船がバスのように決まった時間に行き来している様子も鳥羽湾が見せる景色は大きく変わります。昼間の活気ある風景、夕暮れに染まる空の色、そして夜に広がる静かな灯りによって、それぞれ異なる表情を見せてくれます。こうした景色は、何気ない日常の中でふと目に入るからこそ強く印象に残り、海や季節とともに流れる、この地域ならではの穏やかな時間を感じさせてくれます。

また、同じ場所でも季節によって見える風景や地域の雰囲気が変わることも、暮らしているからこそ気づける魅力だと感じています。例えば和具では、早春のワカメ作業から始まり、夏には岩牡蠣、秋には「答志島トロさわら」、冬には海苔といった海の恵みが季節の移り変わりを私たちに教えてくれます。

さらに、時間帯によっても鳥羽湾が見せる景色は大きく変わります。昼間の活気ある風景、夕暮れに染まる空の色、そして夜に広がる静かな灯りによって、それぞれ異なる表情を見せてくれます。こうした景色は、何気ない日常の中でふと目に入るからこそ強く印象に残り、海や季節とともに流れる、この地域ならではの穏やかな時間を感じさせてくれます。



TOBA

観光商工課 TEL 25-1157

Fantastique

国際交流員フランス・ドリアンがみつけた
ファンタスティック

Vol.14



vol.157

TEL 25-1118

総務課防災危機管理室

一人一人が備えて！ 防災力UP！鳥羽